

第2回 2018年度入試対策

河合塾 共催 Z-KAI

東大 即応オープン

信頼と実績の母集団
(2016年11月実施 受験者数)

9,991名

2017年度東大志願者数 9,534名

東大志望者の
未来を拓く

東大即応オープン4大特典

- ◆ **New** Web によるプレ学習
「合否を分ける答案作成のポイント」を提供
- ◆ **New** Web によるフォロー学習
「東大即応オープン Web 解説講義」を提供
- ◆ フォローアップ添削システム
Z会による答案作成添削指導
理科(理科)・地歴(文科)の復習問題にチャレンジ
- ◆ 英語リスニング CD
聞き取り試験対策用 CD を試験当日配付



模試の受験準備から復習まで、東大合格へのトータルサポート!

New プレ学習

合否を分ける 答案作成のポイント

再現答案分析に基づき、模試当日までに必ず押さえておきたい「合否を分ける答案作成のポイント」を解説します。

第3回
全統マーク模試受験

第2回
東大即応オープン受験

New フォロー学習

第2回東大即応オープン

Web 解説講義

記憶が新しいうちに解説講義でしっかり定着!

模試のあとはしっかり復習

「学習の手引き／解答・解説集」が強い味方に!

個人成績表返却

フォローアップ添削

個人成績表に表示される復習指示に従い、復習問題にチャレンジ!

※フォローアップ添削の詳細は下記をご覧ください。

Z会による 答案作成指導

Z会の添削指導者による合格に向けた答案作成指導! 解答例とともに返却します。

東大合格へ!

第3回全統マーク模試とドッキング総合評価!!

河合塾とZ会が東大志望者を強力にバックアップ

実力を試せる、本番さながらの質と規模

確かな受験指導と、高い東大合格率で知られる『河合塾』。通信教育の名門として、これまでに数多くの東大合格者を送りだしてきた『Z会』。

この二つが共催することにより、全国水準の模試としては、今までにない質と規模を実現した「東大即応オープン」。この模試は東大入試のオープン戦として、

●入試の傾向を的確に捉えた即応問題

●質の高い母集団

(昨年度受験者数：第1回 10,373名、
第2回 9,991名)

で、本番さながらに競い合うことができます。

■2016年度実施 東大即応オープン 高校別受験者数(現役・卒生TOP30)

高校名(都道府県)	第1回	第2回	合計	高校名(都道府県)	第1回	第2回	合計
開成 東京都	315	341	656	浅野 神奈川県	98	95	193
日比谷 東京都	219	173	392	筑波大学附属 東京都	86	102	188
灘 兵庫県	188	190	378	西 東京都	93	89	182
聖光学院 神奈川県	168	159	327	豊島岡女子学園 東京都	90	83	173
筑波大学附属駒場 東京都	158	152	310	武蔵(私立) 東京都	78	81	159
麻布 東京都	133	173	306	久留米大学附設 福岡県	92	67	159
渋谷教育学園幕張 千葉県	144	149	293	横浜翠嵐 神奈川県	76	77	153
栄光学園 神奈川県	143	149	292	桐蔭学園 神奈川県	86	67	153
駒場東邦 東京都	134	151	285	旭丘 愛知県	80	73	153
東京学芸大学附属 東京都	131	131	262	岡崎 愛知県	80	73	153
桜蔭 東京都	119	137	256	巣鴨 東京都	82	67	149
ラ・サール 鹿児島県	126	115	241	東海 愛知県	71	78	149
海城 東京都	100	119	219	水戸第一 茨城県	85	61	146
江戸川学園取手 茨城県	108	107	215	土浦第一 茨城県	75	70	145
西大和学園 奈良県	94	101	195	早稲田 東京都	70	70	140

模試受験前のプレ学習から試験後のフォローアップまでを充実させた“模試の未来形”

模試はどれも同じ、なんて考えていませんか。「東大即応オープン」は、単なる模試ではありません。

模試の受験準備から試験後のフォローアップまでをトータルに含むシステム型の模試なのです。

「東大即応オープン」では、徹底して年間を通したフォローを行い、受験生の合格力アップをめざします。

事前に
見よう!

New プレ学習「合否を分ける答案作成のポイント」

- 再現答案分析から判明した、合否を分ける答案作成のポイントとは? 模試当日までに必ず押さえておきたい、各教科の答案作成のポイントを解説します。
- 講義は Web を通して行い、PC やスマートフォンで視聴できます。視聴開始日は10月22日(日)です(予定)。

New フォロー学習「第2回東大即応オープン Web 解説講義」

- 解説講義では、本模試の出題意図、答案作成上のポイントや今後の学習指針などを解説します。
- 講義は Web を通して行い、PC やスマートフォンで視聴できます。

プレ学習・フォロー学習の視聴方法などの詳細については、下記 URL からアクセスし、画面の案内でご確認ください。

<http://www.kawai-juku.ac.jp/trial-exam/zento/schooling/>



フォローアップ添削システム*

- 受験生個々の弱点に応じた補強添削問題を出題します(後日お届けする個人成績表に該当の問題を提示します)。提出締切は第1回:2018年1月4日(木)、第2回:1月10日(水)です。
- 模試受験時にクリアできなかった分野について、Z会の添削指導者が復習問題の添削を通じて東大合格のための答案作成方法を指導し、解答例とともに返却します。

*模試を受験(出席)された方が対象となります。

*理科志望者は物理・化学・生物・地学のうち2科目、文科志望者は日本史・世界史・地理のうち2科目について、受験生それぞれの弱点箇所1題ずつについて実施します。

英語リスニング CD

- 東大英語の鍵をにぎると言われる「聞き取り試験」。東大即応オープンの受験者全員に、聞き取り試験対策用の「英語リスニング CD」を試験当日配付します。
- 2016年度東大入試問題も同時収録しています(音声は河合塾で収録しています)。

2018年度
入試対策

東大即応オープン実施要項

第3回全統マーク模試とドッキング総合評価

■ 9月1日(金) 12:00より受付開始

試験科目

- ・東大(前期日程)の二次本試験に準じます。
- ・合格可能性評価は第1志望のみ行います。

【文科】

教科	出題内容
国語	国語総合、国語表現、現代文B、古典B
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、ベクトル)
地理歴史	日本史B、世界史B、地理Bの3科目より2科目
英語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ ・試験の一部分に聞き取り試験を行います。(30分程度) ・記号解答部分はマークシートに解答(本番入試に準拠)

【理科】

教科	出題内容
国語	国語総合、国語表現
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(数列、ベクトル)
理科	物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学の4科目より2科目
英語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ ・試験の一部分に聞き取り試験を行います。(30分程度) ・記号解答部分はマークシートに解答(本番入試に準拠)

時間割

試験会場により時間割が異なることがありますので必ず受験票で確認してください。

【文科】

教科	時間	
1日目	入室	14:05～(予定)
	国語	14:30～17:00(150分)
	数学	17:15～18:55(100分)
	受験届記入	18:55～19:05(10分)
2日目	入室	8:35～(予定)
	地理歴史	9:00～11:30(150分)
	昼休み	11:30～12:30(60分)
	英語	12:30～14:30(120分)

・地理歴史は日本史B、世界史B、地理Bより2科目選択

【理科】

教科	時間	
1日目	入室	14:05～(予定)
	国語	14:30～16:10(100分)
	数学	16:25～18:55(150分)
	受験届記入	18:55～19:05(10分)
2日目	入室	8:35～(予定)
	理科	9:00～11:30(150分)
	昼休み	11:30～12:30(60分)
	英語	12:30～14:30(120分)

・理科は物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学より2科目選択

個人成績情報の共有について

〈第2回東大即応オープンと第3回全統マーク模試をともに受験された方〉
ドッキング総合評価のために、共催しているZ会とマーク模試の個人成績の情報を共有します。

受験料

(税込)

一般申込
5,960円

- ・受験料には成績資料返送料を含みます。
- ・いったんお支払いいただいた受験料の返金はできませんのでご了承ください。

模試の中止について

台風・地震などの自然災害、感染症の流行などにより模試の実施を中止することがあります。

事前に予測される場合は、実施日前日より河合塾ホームページで告知します。

◎河合塾ホームページの右上部⇒「緊急のお知らせ」



スマートフォンの方はこちら



成績資料の発送日 …… 12月13日(水)簡易書留にて発送

○返却資料

- 1.個人成績表、採点済答案
- 2.フォローアップ添削問題
- 3.『成績統計資料と学習アドバイス(データ号)』

・試験当日欠席された方には、問題と解答(学習の手引き)を成績資料発送日以降に宅配でお届けします。

・成績優秀者は、成績統計資料集に氏名などが掲載されます(受験時に掲載の可否を確認します)。

※2日目を欠席する(あるいは1日目を欠席した)場合の問題・解答(学習の手引き)の配付については、必ず会場でご確認ください。

受付期間 9月1日(金)12:00から試験実施日の9日前※15:00まで

※各模試の受付期間を過ぎますとお申し込みができませんので、必ず期間内にお申し込みください。※締切日が土日祝の場合は、前日(平日)になります。
※受付期間内でも、会場ごとに定員になり次第締め切らせていただきますのでご了承ください。



お申し込みの流れ・試験会場の確認など、
詳細はホームページ「全統模試」でご確認ください。

全統模試

検索

<http://www.kawai-juku.ac.jp/trial-exam/zento/>

申込方法

インターネットでのお申し込みのみとなります。



パソコン・
スマートフォンから

ホームページ「全統模試」を検索し、「一般生のお申し込み」の「お申し込み」ボタン、または「年間ラインアップ」から対象学年を選択し、「受付開始日」の「〈一般生用〉申込へ進む」からお申し込みください。



スマートフォンの
方はこちら



フィーチャーフォンから
(どちらからでもお申し込みできます)

<http://i.moshi.jp/>

第2回 東大即応オープン 13@moshi.jp

左記のアドレスに空メールを送っていただく
と自動返信されるメールからお申し込みできます。

- ・スマートフォンおよびフィーチャーフォンの一部機種には対応しておりませんのでご了承ください。
- ・メールの受信拒否設定を利用されている場合は、「moshi.jp」および「kawai-juku.ac.jp」ドメインのメールを受信できるように設定変更をお願いいたします。
- ・アクセス制限サービスを受けていて、ご自身の携帯電話からサイトへアクセスできない場合は、パソコンまたはアクセス制限サービスを受けていない携帯電話（保護者様の携帯電話など）からお申し込みください。
- ・お申し込みは上記の方法のみとなりますので、パソコン・携帯電話をお持ちでない場合は、ご家族のパソコン・携帯電話からお申し込みください。お申し込みには、ご本人の情報登録が必要となります。お申し込み後、受験までに必要な情報は登録いただいたメールアドレスにメールにてご連絡させていただきます。

！お申し込み上の注意

- ・お申し込みにはご本人の正確な情報をご登録ください。登録された住所に番地、部屋番号の不備があった場合や、偽名・ペンネーム・受験者本人がお住まいでない住所などでお申し込みをされた場合は、成績資料などの返却ができないことがあります。
- ・模試の受験に際して特別な対応が必要な方は、お申し込み前に模試受付センターまでご相談ください。なお、状況によっては対応いたしかねる場合もございますので、あらかじめご了承ください。

試験会場の確認

「全統模試案内」ページの「年間ラインアップ」から対象学年を選択し、「試験会場・実施日」または「受付開始日」の「〈一般生用〉申込へ進む」から進んだ画面にてご確認ください。

※フィーチャーフォンでは、お申し込み画面にてご確認いただけます。

学校を通してのお申し込み方法・河合塾生のお申し込み方法

- ・個人でお申し込みいただく方法以外に、高校でまとめてお申し込みいただく方法（高校一括参加申込）もあり、受験料が特別料金となります。その場合は申込方法が異なりますので、担任の先生にご確認ください。
- ・河合塾に在籍されている方は受験料の特典があり、申込方法も異なりますのでご注意ください。詳しくは在籍している校舎にお問い合わせください。

プレ学習「合否を分ける答案作成のポイント」およびフォロー学習「第2回東大即応オープンWeb解説講義」について

視聴方法などの詳細については、下記URLからアクセスし、画面の案内でご確認ください。

<http://www.kawai-juku.ac.jp/trial-exam/zento/schooling/>



2月河合塾直前講習 **東大本番プレテスト** — 東大受験生に贈る本番直前の予想問題テストゼミ —

- Point1 全国のライバルと競い合う本番前最後のチャンス！
- Point2 東大本番入試と同じ時間割・形式で全教科実施！
- Point3 すべての答案を一枚一枚丁寧に採点し解説講義時に返却！
- Point4 東大入試を熟知した講師陣による解説講義！PC・スマホ視聴可！

※2018年度東大即応オープン受験者（申込者）、または2017年度夏期・冬期・直前講習の東大講座受講者のみの特典となります。
インターネット申込はご利用になれません。電話・窓口申込をご利用ください。

受講料 5,000円

→ 特別料金 2,000円※

河合塾

■お問い合わせ先（12:00～18:00 日祝休み）

模試受付センター：☎0120-977-558

*河合塾生の方は所属校舎にお問い合わせください。

*模試受付センターでは、正確な対応と対応品質向上のため、通話内容を録音させていただいております。

■試験実施日当日専用フリーダイヤル（1日目13:00～20:05 2日目7:30～15:30）

全統模試コールセンター：☎0120-505-142

Z会

■Z会高校生向けコースお客様センター 通話料無料 0120-75-1039

受付時間 月曜日～土曜日 9:00～20:00（年末年始を除く、祝日も受付）

2018年度東大入試はこうなる！ …出題予想



英語

確実な英語力とスピーディーな処理能力が東大英語の攻略の決め手。

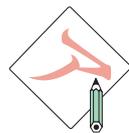
英文要約・英作文・リスニング・和訳・読解総合・文法語法問題という出題形式自体が大きく変わることはないだろう。難易度的には、標準～やや難程度の問題が大半である。ただし、全体の分量が非常に多いため、合格するには、「読む」「書く」「聞き取る」能力に加え、スピーディーな処理能力も必要だ。(要約・和訳・内容説明問題)などでは、日本語の表現にも配慮した解答を書けるようにしておく。(英作文)に関しては、与えられた英文を読み適切な内容の英文を書く設問など、東大で頻出の型に沿って演習しておく。(リスニング)は、英文の量も設問数も多いため、日頃よりコンスタントに取り組んでおかないと高得点は狙えない。(文法語法)については、正確な知識を習得し、確実に運用できるようにしておく。



数学

いずれも総合力を試す問題。知識偏重を避け、思考力を鍛えておくこと。

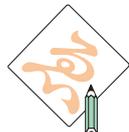
文科・理科ともに、洞察力・想像力・計算力・図形的感覚など、総合的な力を必要とする問題が出題されている。基本的な知識を有機的に活用する能力を身につけておくことが大切である。特に、整数や図形問題に慣れ親しんでおくこと。理科では、数学Ⅲの微分・積分に関して、計算力と発想力の両面での準備が必要である。不等式や近似の考え方にも慣れておきたい。また、初めて見るタイプの問題も出題される。見たことのない問題に対しても、問題文をよく読んで、内容を的確に把握する訓練をしていくことが望まれる。文科では、出題分野全般についての、ムラのない学習が望まれる。複雑な計算が要求されることもあるから、正確な計算力をつけておくことも大切である。



現代文

論理的な読解力と表現力を身につける練習がポイント。

第一問は比較的硬質な論説文、第四問は随筆風の文章、というのが、東大の現代文の基本傾向である。今年度もこの傾向は変わらないだろう。ただ第四問は、作家の典型的な随筆が出題されることもあれば、思想や文化を扱った評論文が出題されることもあるので、文科の諸君はいずれのタイプの文章が出題されてもいかに練習しておく。なお、まれに第一問で随筆風の文章が出題されることもあるので、理科の諸君もこのタイプの文章に慣れておいた方がよい。設問に関しては、形式・設問数ともにこれまでとあまり変わらないだろう。2行解答欄の設問では、1行30字前後の字数で、論点が明確でしかも論理的な筋の通った答案を作成する必要がある。また第一問の問四対策として、本文の論旨を踏まえた多少長めの記述力(120字)を身につけることも忘れてほしい。



古文

知識に基づき正確な読解をめざす。要点を絞った簡潔な答案の作成が肝心。

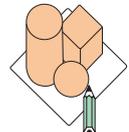
2017年度は、『源氏物語』からの出題であったが、例年通り文理共通の文章による出題であった。出典の時代とジャンルが違って難易度は標準的であり、設問が現代語訳と内容説明しかない点は安定している。この傾向は、2018年度も継続されるだろう。難問奇問がないだけに、完成度の高い答案が求められる。古典文法や古語を一通り習得し、知識を駆使して正確な読解をめざそう。その上で、必要なことだけを簡潔にまとめる答案作成の技術を磨くことが肝心である。与えられている解答欄に、必要充分と思われ解答が収めきれない時があるので、表現の工夫は必須だと心得たい。近年頻出の作り物語を手始めにさまざまな作品に触れつつ、和歌の解釈に慣れるのが得策である。



漢文

読解力と表現力が要求される。句形と重要単語は確実にマスターしたい。

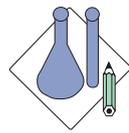
東大の漢文は、本年も昨年同様、文理共通した問題文からの出題であった。本年は散文が出題されたが、問題は、現代語訳と説明問題が中心で、極めて標準的であった。読解力を深めようとする従来の東大の傾向に変化は見られない。本年の出題はなかったが、空欄補充や抜き出し、書き下しの問題が出題される場合もあるので、いかなる問題が出されても確実に対応できる実力を養っておかなければならない。解答は、本文を文脈に即して正確に読解した上で、的確な表現で作成する必要がある。基本句形や重要語句を確実に身に付け、簡潔で過不足ない答案が作成できるよう日頃から適切な日本語表現力を鍛えたい。散文だけではなく、漢詩や詩話にも注意が必要である。



物理

目新しい装置で物理的センスと応用力を試す。論述形式で思考過程と表現力をみる。

第一問には力学、第二問には電磁気が例年出題されている。力学では特に、単振動、物体系の運動、等加速度運動が頻出である。電磁気では、コンデンサー、電気回路、電磁誘導の分野からの出題が多く、電磁場中での荷電粒子の運動もよく出題される。第三問は、波動が熱・気体もしくは原子分野からの出題となる。波動分野では、光波の干渉とドップラー効果が多い。標準のダブルスリットや回折格子に少し手を加えた目新しい装置で干渉の理解を問う問題がよく出される。熱・気体では、従来、気体の状態変化の問題が多かったが、最近では分子運動がらみの新傾向問題も多く出題されている。原子分野からはそれほど手の込んだ問題は出ないと予想しているが、基本的な問題を他の分野の問題にからめた分野横断型の融合問題も予想されるので、満遍なく基本事項を学習しておく必要がある。



化学

気体と化学量論は頻出。化学的思考力を鍛えておこう。

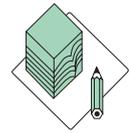
例年、第一問は理論、第二問は理論と無機(あるいは無機と理論の融合問題)、第三問は有機が出題される。2017年度は、第一問と第三問が逆になっていた。理論は化学的思考力を試す高度な問題が出題されるので、論理的に考える訓練をしておく必要がある。気体と化学量は頻出である。無機は単独ではなく理論と絡めて出題されることが多い。2012年度、2015年度、2017年度は第二問の約半分が無機の問題であった。有機は例年標準的な問題が出題されていたが、近年やや難しい問題が出題されている。異性体、官能基の検出反応、構造決定、分離は頻出である。近年、天然有機化合物や合成高分子化合物がよく出題されている(2012年度～2014年度、2016年度、2017年度)。2017年度は、第1、2、3問すべて易しい問題が出題されたが、2018年度は従来どおりハイレベルの出題が予想される。



生物

データ考察問題が中心。読解力、論述力、計算力を鍛えておこう。

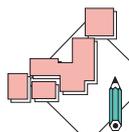
遺伝子を中心とする分子生物学の分野と、細胞・発生・生物の環境応答・免疫・遺伝などの分野との融合問題が出題の中心となるだろう。近年、種々の生命現象に関して、その分子機構を問う問題が多く出題されているので、模試を通して、形質と各種因子との関係や、それらの因子どうしの相互作用などを読み取る練習をしておこう。また、光合成・植物ホルモン・個体群・植生・進化などを関連づけた、植物に関する総合問題も頻出なので、注意が必要である。問題の分量が多く、論述問題や計算問題も多く出題されるため、問題文の内容を正確に読み取る読解力、論点を的確にまとめて記述する論述力、与えられたデータを適切に処理する計算力を養っておく必要がある。



地学

教科書ベースの応用問題。計算力・論述力が攻略の力強い。

第一問は天文、第二問は大気・海洋、第三問は固体地球、岩石・鉱物、地質の分野から出題される。第一問は、銀河・恒星の分野から出題されることが多く、誘導形式により組み立てられた計算問題が中心である。前の方の問いで間違えると後の問いが全滅することも多いので、正確な計算力が鍵になる。第二問・第三問は、基礎的な知識問題・計算問題・論述問題から構成されることが多い。論述量が多いので、ここで時間をとれないように気をつけたい。全体的な対策としては、特別なことをするよりは、基礎的な用語や概念を確実に理解することともに、その内容を簡潔にまとめる論述演習を積み重ねるといった日頃の地道な作業の方が有効である。桁数の多い四則演算を短時間で正確にこなせるように練習しておくことも大切である。



日本史

古代から近代(現代)まで出題。歴史の正確な理解と論理的な思考力が試される。

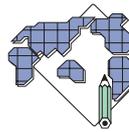
大問4題を古代・中世・近世・近現代に配するのが通常のパターン。第一問は律令体制もしくは平安期の変化に関する出題が多い。第二問・第三問には顕著な傾向は認められないが、第二問は武家政権・武士社会の特徴に関する出題、第三問は幕藩体制の仕組みに関連するテーマからの出題がやや目立つ。第四問は社会経済史からの出題が多めである。また、第一問～第三問は、個別具体的な情報が盛り込まれた条件文などを読み、それらの内容を抽象化・一般化して再構成することを求められるものが多い。知識量よりも歴史の正確な理解と論理的な思考力・文章力が重要となる。一方、第四問は史料やグラフ・表などが示され、それを読み取る問題が多いが、自己の知識を基本に解答しなければならないことが多い。



世界史

個々の史実を結びつけ、大局的に論じられる実力。

第一問が大論述、第二問が短論述、第三問が一問一答という例年の全体構成は変わらないだろう。しかしながら、第一問では2016年度では冷戦末期、2017年度では古代帝国と、例年の傾向から想定しにくい範囲が出題された。特定の時代だけに偏った学習や、過去問の解答例を暗記するだけのような歪んだ学習に対して、十分な警鐘になったことだろう。第一問は、洋の東西にわたるグローバルに歴史を論じさせることに特色がある。同時代的な空間軸を捉える学習はもちろん、地域や都市を時間軸で整理するような学習も進め、歴史的に意味がある文章を書けるようにしてほしい。第二問は正確な知識に基づいた説明が求められる。小さな失点が積み重なり、実は点差が開くので軽視してはならない。もちろん、第三問は確実に完答したい。



地理

客観問題の得点が合否につながる。論述は題意・図表をしっかりと読み取る。

自然環境、産業、資源・環境問題、人口・都市問題、交通・通信などに関して、図表を用いて多面的に問う問題が多い。大問は3題でそれぞれに2～3行の論述問題が5問程度あり、総字数は1000字を超えることもある。客観式は全体で15～20個で、内容は易しいが、判定が論述問題に影響する場合もあり、取りこぼしは許されない。論述問題は、①地域の比較、②産業や人口などの時代変化、③自然環境や環境問題の成因など、論理的な説明を求めるものが多い。題意からずれると得点にならないので、問題文や図表をしっかりと読み取り、簡潔にまとめる論述演習が欠かせない。雨温図、国別統計表、分布図などの図表に加え、都市化、災害などによる地域変化を示す新旧地形図の判読が問われる可能性が高い。普段から教科書や地図帳の図表を活用し、判読力を養っておきたい。